

【静岡県伊豆市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1.1 人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

高速大容量通信ネットワークを整備し、1人1台端末のより一層の活用を進める中で、特別な支援を必要とする児童生徒を含め、多様な児童生徒1人1人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる、教育 ICT 環境を実現する。

2.GIGA 第1期（～令和6年度まで）の総括

本市では、令和3年度から GIGA スクール構想に対応する1人1台端末を導入し、同年度には、頻発するネットワーク障害を解消するため、GIGA スクール専用回線を市内全小・中・義務教育学校に導入し、ネットワーク環境の整備を行った。併せて授業支援ツールとして株式会社 LoiLo の「ロイロノート・スクール」を契約し、意見共有や協働学習に活用してきた。現在では、全校で1人1台端末の家庭への持ち帰りを行っており、学習用ドリル教材であるラインズ株式会社の「eライブラリ」を活用した家庭学習体制も整ってきた。

しかし、1人1台端末のフィルタリングについては、教育的な学習コンテンツでもフィルタリングがかかったり、反対に有害な動画が視聴できたりなど「個別最適な学び」に十分に結びつかないという課題がみられた。この課題について、GIGA 第2期では、別のフィルタリングソフトを導入する予定である。セキュリティ対策を強化したうえで学年や利用目的に応じた適切なフィルタリング設定を可能にすることで、「個別最適な学び」や「探究的な学び」が展開できると考える。

3.1 人1台端末の利活用方策

（1）1人1台端末の積極的利活用

- ① 教職員の ICT 研修について、ICT 研修を受講する教員の割合を上げるために、オンラインを活用した研修や、研修のアーカイブ配信やオンデマンド配信の活用を推進し、ロケーションフリーな環境の実現を目指していく。

② ICT 支援員の配置については、令和 7 年度も前年度同様の訪問回数を予定している。また、市 ICT 支援員も年間 35 回程度訪問できるように継続的に配置する。

③ デジタル教科書の活用について、令和 6 年度英語は全小・中・義務教育学校に導入されている。算数・数学については市内小・中・義務教育学校は、全 10 校中 6 校が導入された。令和 7 年度も同程度の導入を予定している。令和 6 年度と令和 7 年度の導入校を別にするすることで、市内学校で系統的にデジタル教科書の活用についての実践や研修を進め、実践的な活用を目指していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

以下 5 つの場面において、端末の具体的な活用方法や情報共有など、学校と連携を図りながら個別最適な学び・協働的な学びの一体化を図っていく。

- ・児童生徒が調べる場面
- ・児童生徒が発表・表現する場面
- ・児童生徒が教職員とやりとりする場面
- ・児童生徒同士でやりとりする場面
- ・児童生徒が理解度等に合わせて課題に取り組む場面

(3) 学びの保障

1 人 1 台端末の日常的な利活用を継続するとともに、学びの公平性を確保し、すべての子供が自分に合った学習ができるための支援として、以下の実施を検討する。

- ・希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加、視聴の機会を提供する。
- ・希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を実施する。
- ・外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用する。
- ・障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態に応じて端末を活用した支援を実施する。